

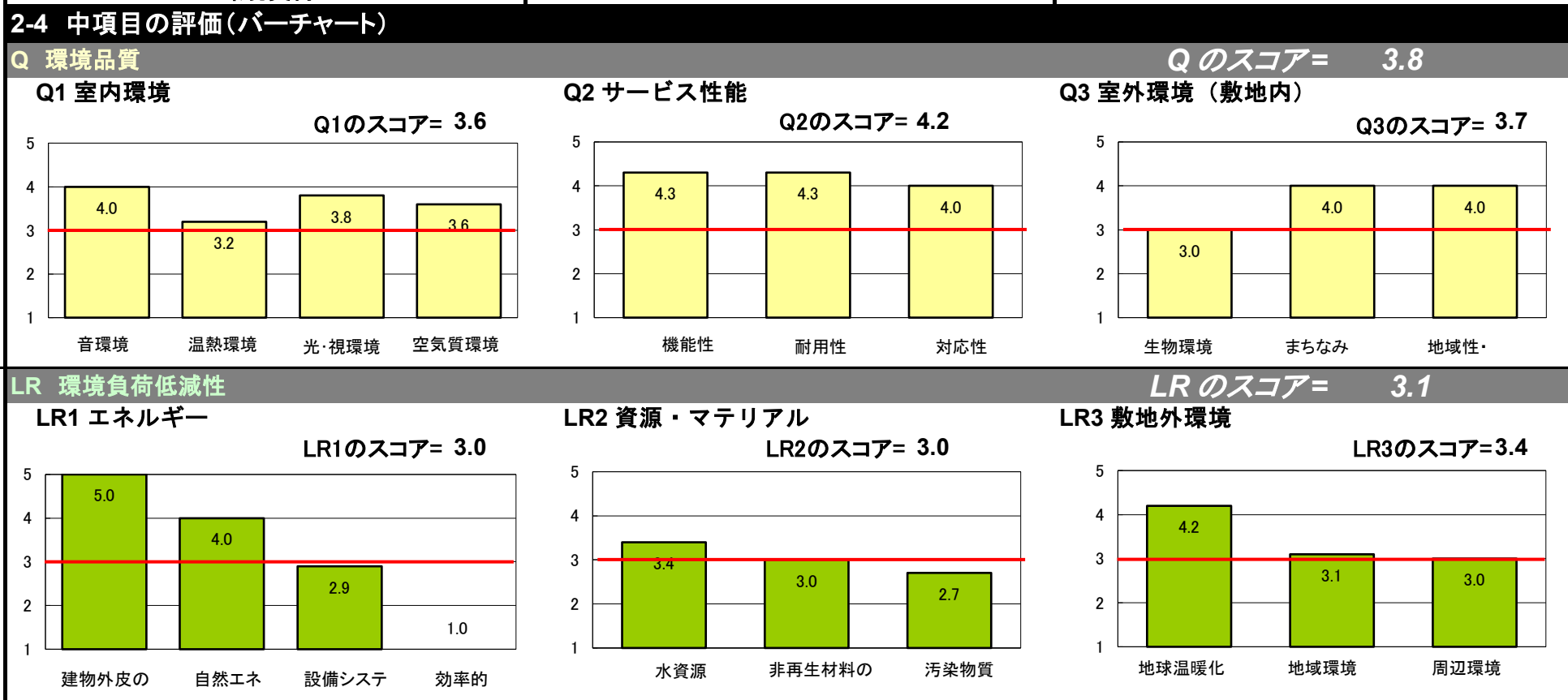
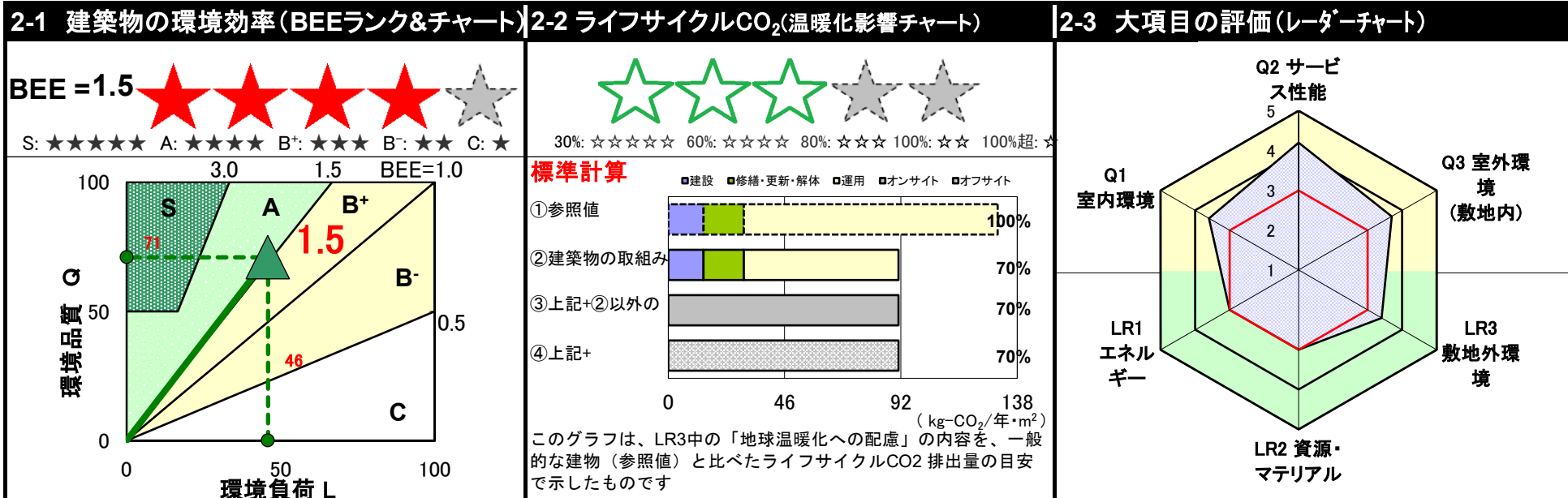
# CASBEE<sup>®</sup> - 建築 (新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版\_追補版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ほくほくFG本社ビル	階数	地上13F,地下1階,塔屋1階
建設地	富山県富山市牛島町137,138,139,14	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	700 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,940 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年3月 予定	評価の実施日	2025年2月4日
敷地面積	4,304 m <sup>2</sup>	作成者	日建設計
建築面積	2,447 m <sup>2</sup>	確認日	2025年2月4日
延床面積	25,307 m <sup>2</sup>	確認者	日建設計

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください



3 設計上の配慮事項		その他
<p><b>総合</b> ガラスファインの縦基調デザインと自然換気を併用したダブルスキンの採用、設備の各種計画により、外部環境、室内環境に配慮した外装デザインとしている。 バックアップスペース確保やメンテナンス性に関し各所に配慮している。 外構は庇の設置や積極的緑化により、地球環境への配慮と良好な歩行者空間の創出し、駐車場、駐輪場確保により周辺</p>		0
<p><b>Q1 室内環境</b> ・外気取入量を30m<sup>3</sup>/h人とし、かつ室内CO<sub>2</sub>濃度の監視を行うことで室内環境に配慮した計画となっている。 ・音環境に配慮した間仕切り・サッシを採用、温熱環境に配慮したダブルスキンを採用、窓面積の十分な確保と電動ブラインドによる光環境制御により、良好な室内環境を確保</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> ・耐用年数の長い材料、必要更新期間の長い機器を採用している。 ・機器のバックアップスペースを確保したゆりのある計画となっている。 ・執務スペース床はOAフロアを基本としている。基準天井</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> ・外構緑化指数は27.6%を確保。富山の気候に合う植栽を選定し、灌水設備を設置し維持管理に配慮。 ・ガラスファインの縦基調デザインにより、全体ボリュームを分節し圧迫感を軽減。 ・緑豊かな外構計画により地域に賑わいを創出する歩行者</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b> ・事務室基準階は自然換気開口を北・東面に設置。 ・自然換気有効開口面積は23.5c m<sup>2</sup>/m<sup>2</sup>確保。 ・大便器は6L/回、祇園装置設置し、節水に配慮。 ・井水の雑用水利用を行っている。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> ・主要構造躯体のコンクリート基準強度Fc = 36 以上60 未満、かつ F = 390 以上。1 階柱より上はF=325 の鋼材を、1 階床梁はF=385 の鋼材を使っている。 ・井水の雑用水への利用、節水器具の採用など、資源に配</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> ・気象データを参照し地域の風環境を把握した上でシミュレーションを行い建物の配置や外装を計画。外装のガラスファインの向き給排気口の計画に反映。 ・外構部分は庇を設け緑化確保し地表面の熱環境に配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される